

外国人観光客の相談相手となりうる
Twitter ユーザの推薦に関する研究
Research on Twitter User Recommendation
as Adviser of Foreign Sightseers

学籍番号：201421594

氏名：田中 匠

Takumi TANAKA

旅行口コミサイトでは、特定の観光地についての様々な情報が投稿されるが、決められた場所についての情報収集・相談しかできず、リアルタイムな相談が難しいという問題がある。

本研究では、英語を話す外国人観光客に対して、日本を観光する際の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦方法を提案する。英語を使用する日本の観光に役立つユーザを相談役として推薦することで、外国人観光客は、推薦された Twitter ユーザとコミュニケーションをとり、自由な話題で気軽に情報収集や問題の解決を行うことが可能となる。

ユーザの推薦は、有用なユーザの条件として仮定した手がかりと、ユーザが主にツイートする地域の情報を利用することにより実現し、求める地域に詳しいユーザを推薦する。ただし、在日米軍関係者は、観光に関するツイートが非常に少ないことが分かったため、推薦に適さないユーザとして除去を行う。有用なユーザの条件と仮定した手がかりがどの程度有効か、評価実験を行なった結果、「写真、チェックイン付きツイートの頻度」や「ツイートを行なった場所の数」という手がかりが、有用なユーザを判定するのに特に重要であることが分かった。

提案した推薦システムの有効性を検証するために、2種類の比較手法を作成し、提案手法と比較手法を使ってユーザを検索するという被験者実験を行なった。比較対象は、既存のサービス（ツイート検索）に基づくユーザ検索手法と、各ユーザについてツイートすべてを結合し、それぞれを1つの文書として、従来の文書検索技術を用いたユーザ検索手法となる。実験の被験者は、外国人留学生で、20代の男女、計7名である。実験の結果、検索の有効性や使いやすさにおいて、提案手法が既存手法を上回った。また、提案手法で推薦されるユーザの質が高いことを明らかにした。

最後に、本研究の貢献を以下にまとめる。

1. 相談相手として有用な Twitter ユーザの判定を行う上で、特に重要な手がかりを明らかにした。
2. 英語を話す外国人観光客に対して、日本を観光する際の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦を行う手法を提案し、既存のサービスや従来の文書検索技術によるユーザ推薦よりも優れていることを確認した。

研究指導教員：佐藤 哲司

副研究指導教員： 関 洋平